



The map shows the outline of Australia and New Zealand. In Australia, several regions are highlighted with numbered circles: ① Great Sandy Desert (yellow), ② Great Victoria Desert (yellow), ③ Great Artesian Basin (grey), ④ Mallee Ring Basin (grey), ⑤ Murray River (blue line), ⑥ Darling River (blue line), ⑦ Great Dividing Range (red line), ⑧ Australian Alps (blue line), ⑨ Snowy River (blue line), and ⑩ Southern Alps (red line). A scale bar indicates 1000 km.

① グレートサンディー砂漠
② グレートヴィクトリア砂漠
**③ グレートアーテシア
ン盆地(大鑽井盆地)**
④ マリーダーリング盆地
⑤ マリー川
⑥ ダーリング川
**⑦ グレートディヴィ
ディング山脈**
**⑧ オーストラリアアル
プス山脈**
⑨ スノーウィー川
**⑩ サザンアルプス山
脈**

オーストラリアで放牧される羊の種類	メリノ種
ニュージーランドで放牧される羊の種類	ロムニー種
水を通さない地層を掘り抜いて、その下にある深い地下水層から水を採取する井戸	掘り抜き井戸
上下を不透水層(難透水層)に挟まれた帶水層に存在し、大気圧よりも高い圧力を受けている地下水	被圧地下水
1949年から1974年にかけてオーストラリアアルプス山脈で実施された、同国史上最大級の土木・水力発電事業	スノーウィーマウンテンズ計画
南回帰線より北部で行われる農業形態	肉牛の放牧
年降水量500mm以下の地域で行われる農業形態	羊の放牧
オーストラリア南東部、南西部の年降水量500mm付近で行われる農業形態	小麦栽培 集約的牧羊
オーストラリア北東部のケアンズ周辺で栽培される作物	さとうきび
オーストラリア東岸の大都市で行われる農業形態	酪農 野菜、果樹栽培
ニュージーランドの気候に影響を与える風	偏西風
北島の西部でみられる農業形態	酪農
南島の東部でみられる農業形態	羊の放牧 小麦

①リヤノ
②オリノコ川
③アマゾン川
④ギアナ高地
⑤セルバ
⑥セラード
⑦アンデス山脈
⑧グランチャコ
⑨ラプラタ川
⑩カンポ
⑪パンパ
⑫パタゴニア

アマゾン川流域で行われている農業	焼畑農業
アンデス山脈の低地で栽培される作物	カカオ、コーヒー、さとうきび、綿花、バナナ、オレンジ等
アンデス山脈の高地で栽培される作物	大麦、じゃがいも、とうもろこし、小麦
アンデス山脈のさらに高地で放牧される動物	アルパカ、リヤマ
ブラジル東部に分布する間帯土壌	テラローシャ
↑をつくる岩石	玄武岩
色	赤紫色
↑で栽培される作物	コーヒー豆
パンパのうち、年降水量が550mmを超える地域	湿潤パンパ
↑で行われる農業形態	混合農業 小麦栽培
パンパのうち、年降水量が550mmを超えない地域	乾燥パンパ
↑で行われる農業形態	羊の放牧
近年セラードで栽培が盛んな作物	大豆

大規模な農園に多くの労働者を雇い、農園主の管理下で行われる農業経営	大土地所有制
大農園の総称	ラティフィンディオ
メキシコ、ボリビア、ペルーでの呼び方	アシエンダ
アルゼンチンでの呼び方	エスタンシア
ブラジルでの呼び方	ファゼンダ
マメ科の多年草で「最良の草」を意味するペルシャ語が語源の栄養豊富な野菜	アルファルファ
WW II 下において、食料の需給と価格の安定化を図るため、政府が生産・流通・消費を管理した法律	食糧管理法
農地を政府が買い上げ小作人に売却するしくみ	農地改革
高度経済成長における商工業との所得格差拡大防止に向け、農業生産性の引き上げと農業所得の増大を目指した法律	農業基本法
経営耕地面積30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家	販売農家
↑のうち、農業所得が主で1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の者がいる農家	主業農家
農外所得が主で1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の者がいる農家	準主業農家
1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の者がいない農家	副業的農家
経営耕地面積が40a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家	自給的農家
1970年代から2018年にかけて、日本政府が主導した米の生産量調整政策	減反政策
日本、オーストラリア、カナダなど太平洋沿岸諸国が参加する、モノの関税撤廃やサービス・投資・知的財産などのルール構築を目指す広域経済連携協定	TPP 環太平洋パートナーシップ協定
農産物検査法に基づき、産地・品種・産年が明確に証明された、品質の高いお米のこと	銘柄米
WTO協定に基づき、日本が原則としてコメの輸入を制限する代わりに、年間約77万トン(玄米換算)を無関税または低関税で輸入する枠組み	ミニマムアクセス
農林漁業者(1次)が、自ら加工(2次)や販売・サービス(3次)までを一貫的に手掛けることで、農林水産物の付加価値を高め、所得向上や雇用創出を目指す取り組み	6次産業化
日本の食料自給率(カロリーベース)	約38%
米の自給率(2024)	99%

果実の自給率(2023)	38%
野菜の自給率(2023)	80%
農地法に基づき農地を所有し、農業経営を主たる事業として行うことができる法人	農業生産法人
世界で森林面積が陸地に占める割合	30%
日本で森林が国土に占める割合	2/3
森林のうち、熱帯雨林気候を中心に分布するもの	熱帯林
↑の主な樹種	ラワン、チーク、マホガニー、紫檀・黒檀、ケブラチョ
森林のうち、温帯に分布するもの	温帯林
↑のうち、主な常緑広葉樹の樹種	カシ、シイ(照葉) オリーブ、コルクガシ(硬葉)
主な落葉広葉樹の樹種	ブナ、ナラ、ケヤキ
主な針葉樹の樹種	マツ、スギ、ヒノキ
森林のうち、亜寒帯に分布するもの	亜寒帯林(冷帯林)
木材のうち、建築材料や製紙材料(パルプなど)に利用するもの	用材
木材のうち、燃料として利用するもの	薪炭材
太平洋北西部でぶつかる海流(4つ)	千島海流 リマン海流 日本海流 対馬海流
大西洋北東部でぶつかる海流	東グリーンランド海流 北大西洋海流
↑で取れる主な魚	たら、にしん
大西洋北西部でぶつかる海流	ラブラドル海流 メキシコ湾流
↑で取れる主な魚	たら、にしん
太平洋南東部でぶつかる海流	ペルー(フンボルト) 海流 ペルー沖の湧昇流
↑で取れる主な魚	アンチョビー
↑の地域で、漁獲量が減少する原因となる現象	エルニーニョ現象

太平洋北東部でぶつかる海流	カリфорニア海流 アラスカ海流
↑で取れる主な魚	さけ、ます、たら、かに
太平洋中西部でぶつかる主な海流(3つ)	北赤道海流 南赤道海流 赤道反流
↑で取れる主な魚	かつお、まぐろ
大陸の周りを縁取る、水深200m程度までの浅い海域	大陸棚
↑で特に水深が浅い部分	バンク(浅堆)
暖流と寒流がぶつかるところ	潮目(潮境)
大型漁船で、遠隔の漁場に長期にわたって操業を行う漁業	遠洋漁業
沖合で行われる漁業。↑と↓の中間	沖合漁業
海岸から遠くない、自国の領海内で行われる漁業	沿岸漁業
魚類、貝類、海草類などを人工的に管理、育成すること	養殖業
1990年以降、漁業生産量が急増した国	中国
↑で特に盛んな漁業	養殖
産業革命以降、エネルギーの主流であったもの	石炭
1960年代後半、石炭から石油にエネルギー源が移った出来事	エネルギー革命
エネルギーのうち、自然に存在する物質の形を変えないで利用するエネルギーの総称	一次エネルギー
エネルギーのうち、↑を加工、変形したエネルギーの総称	二次エネルギー
資源の可採埋蔵量を年間生産量で割って算出されるもの	可採年数
地質時代の海棲生物が堆積後に分解されてできたもの	化石燃料
石油の埋蔵量世界1位の国	ベネズエラ
原油を蒸留して得られる沸点30～180℃程度の軽質油で、プラスチックなどの原料	ナフサ
原油の探鉱・採掘から精製、販売までを一貫して行う巨大な国際的石油企業群	国際石油資本 石油メジャー
1960年にサウジアラビア、イラン、イラク、クウェート、ベネズエラの5カ国で設立された、石油産出国の利益保護と原油価格の安定を目的とする国際機関	石油輸出国機構 OPEC
1968年にクウェート、サウジアラビア、リビアが設立したアラブ産油国	アラブ石油輸出国機

中心の国際機関	構 OAPEC
1970年代に2度発生した、中東紛争などを背景とした原油の供給減・価格高騰と、それに伴う世界的な大インフレ・経済混乱の総称	石油危機 オイルショック
西アジアで石油がよく取れる湾	ペルシャ湾
中国の有名な油田	ターチン
ベネズエラの油田	マラカイボ
ロシア	ヴォルガ チュメニ
アメリカ	アラスカ メキシコ湾 カリフォルニア
ヨーロッパ	北海
石炭がよく取れる地域	古期造山帯
大規模な炭田でみられる、地表から直接掘り進む採掘手法	露天掘り
アメリカの有名な炭田	ア巴拉チア
中国	フーシュン
インド	ダモダル
ロシア	クズネツク
オーストラリア	モウラ
天然に産出する可燃性の炭化水素ガス。主成分はメタン	天然ガス
↑を冷却して液体にしたもの	液化天然ガス LNG
頁岩から採取される天然ガス	シェールガス
鉄鉱石がよく取れる地域	安定陸塊
アメリカの有名な鉄山	メサビ
ブラジル	カラジャス イタビラ
オーストラリア	マウントホエールバック
スウェーデン	キルナ
中国	アンシャン

輸出量、埋蔵量、生産量世界1位	オーストラリア
銅鉱生産1位	チリ
2位	ペルー
アルミニウムの原料	ボーキサイト
↑産出上位国	オーストラリア 中国 <u>ギニア</u> ブラジル
金鉱の生産上位国	中国 ロシア オーストラリア カナダ アメリカ <u>南アフリカ共和国</u>
銀鉱の生産上位国	メキシコ 中国 ペルー
スズの生産上位国	中国 <u>インドネシア</u> <u>ミャンマー</u> ブラジル ペルー <u>ボリビア(7位)</u>
ダイヤモンドの生産上位国	ロシア <u>ボツワナ</u> カナダ
非鉄金属のうち、存在量が少なく抽出が困難だが、希少価値が高くIT製品によく利用される金属	レアメタル
↑のうち、希土類と呼ばれる17元素の総称	レアアース
ニッケルの生産上位国	インドネシア フィリピン ロシア <u>ニューカレドニア</u>
チタン	中国 オーストラリア 南アフリカ共和国 <u>エザンビーク</u>
コバルト	<u>コンゴ民主共和国</u> (7割) ロシア
プラチナ族	南アフリカ共和国

	<u>ロシア ジンバブエ</u>
マンガン	<u>南アフリカ共和国 オーストラリア ガボン 中国 ガーナ</u>
クロム	<u>南アフリカ共和国 トルコ カザフスタン インド フィンランド ジンバブエ</u>
使用済みの携帯電話、パソコン、家電製品などの廃棄物中に含まれる金、銀、銅、レアメタルといった有価金属を再利用する「資源循環」の概念	<u>都市鉱山</u>
石油、石炭、天然ガスなどを燃やして水を沸騰させ、水蒸気で発電機のタービンをまわす発電方法	<u>火力発電</u>
↑発電の依存度が高い国	<u>サウジアラビア 日本 アメリカなど</u>
大型ダムや斜面など、自然落差を利用した水の落差エネルギーで発電機のタービンをまわす発電方法	<u>水力発電</u>
↑の依存度が高い国	<u>ノルウェー ブラジル</u>
中国の有名なダム	<u>サンシャダム</u>
核分裂の熱で水を沸騰させ、水蒸気で発電機のタービンをまわす発電方法	<u>原子力発電</u>
↑の依存度が高い国	<u>フランス</u>
枯渇する心配がなく、永続的に利用可能なエネルギー	<u>再生可能エネルギー</u>
火山による地下の熱水を利用してタービンをまわす発電方法	<u>地熱発電</u>
風力によって風車を回転させて行う発電方法	<u>風力発電</u>
太陽の熱を反射板で集め、熱で発電する発電方法	<u>太陽光発電</u>
海面の波の上下運動のエネルギーを利用して行う発電方法	<u>波力発電</u>
植物、排せつ物、ゴミなどを利用して行う発電方法	<u>バイオマス発電</u>
再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が国が定めた固定価格で一定期間(住宅用は10年など)買い取る制度	<u>固定価格買取制度 FIT</u>
↑の代表的な国	<u>ドイツ</u>

発電機で電力を生み出しつつ、その際に発生する廃熱を給油や冷暖房に利用する仕組み	コジェネレーションシステム
---	---------------

記述

オセアニアや南米で、19世紀末頃からヨーロッパ諸国に輸出することが増えた理由	冷凍船が発明されたから
オセアニアや南米において、北半球の国に農作物を輸出する利点	北半球の <u>端境期</u> に栽培し、輸出することができるため、高値で取引できる点
ニュージーランドにおいて、南島の東西で農業形態が大きく異なる理由	偏西風が <u>サザンアルプス山脈</u> にぶつかることで、西部では雨が降るのに対し、東部は乾燥するから
日本の農業の特徴を生産性の観点から説明	労働生産性は低いが、土地生産性は高い
日本において、果実の自給率が低下した理由	輸入の自由化により柑橘類、食の多様化により熱帯果実の輸入が増加し、国産果実の需要が後退したから
日本の国土面積の70%ほどを森林が占めるが、日本が世界から多くの木材を輸入している理由	<ul style="list-style-type: none"> ・木材需要の急増により、外国からのやすい木材を輸入した ・後継者不足による生産量減少、過疎化 ・山地林が多く、林業のコストが高い
日本の遠洋漁業が衰退した理由	<ul style="list-style-type: none"> ・石油危機で燃料費が高騰した ・EEZを各国が採用し、漁場が狭くなった
日本の沖合漁業が衰退した理由	<ul style="list-style-type: none"> ・イワシの漁獲量が減った ・プラザ合意によって、円高ドル安が進み、輸入に頼るようになった
可採年数が増加する理由	新たな埋蔵の確認や、技術向上によって新たに資源の採掘が可能になるから
1990年前後、石油の価格が落ち着いた理由	石油危機などを受け、輸入国が石油の備蓄や省エネルギーを心がけたから
水力発電の課題	山間部に建設するため、環境・生態系の破壊や渇水時に発電が不可能になること
火力発電の課題	二酸化炭素や大気汚染物質の排出や、化石燃料の枯渇
原子力発電の課題	事故時の放射線放出による周囲への影響や、廃棄物の処理の難しさ
太陽光発電の課題	発電量が光の量に左右されること、発電コストが高いこと
風力発電の課題	発電量が風の量に左右されることや、風が強すぎても安全確保のために止まってしまうこと、騒音問題

地熱発電の課題

変動帯に位置する事が多いため、地震の心配があることや、国立公園などと立地が重なるので調整が難しいこと